

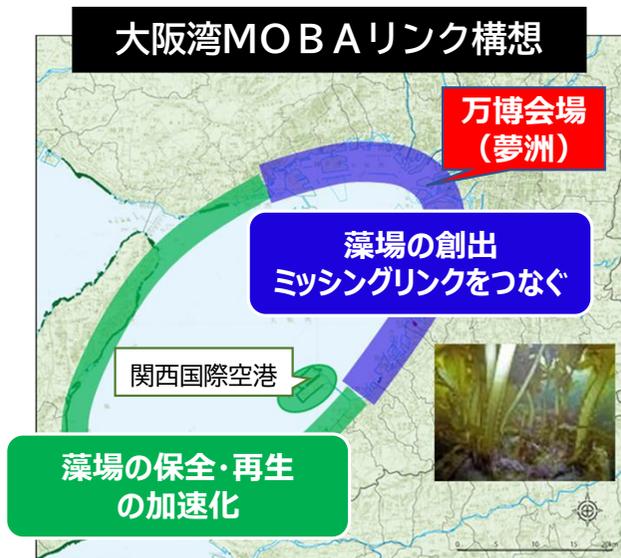
大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンスの活動内容

～大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA) スタートアップミーティング(R6.5.8)～



2024年5月

大阪湾MOBAリンク構想とは



大阪湾におけるブルーカーボン生態系（藻場・干潟）のミッシングリンクとなっている湾奥部（貝塚市～神戸市東部）における創出や、湾南部や西部における保全・再生を大阪・関西万博を契機として、民間企業や地域団体等と連携して加速化することにより、大阪湾沿岸をブルーカーボン生態系の回廊（コリドー）でつなぐ構想

ブルーカーボン
生態系
(藻場・干潟等)



海草(うみくさ)藻場



海藻(うみも)藻場



干潟

構想実現への道筋

- 2030年度 大阪湾のMOBA拠点整備及び活動活性化（SDGs・ネイチャーポジティブ（自然再興）等に貢献）
 - 大阪湾奥部の藻場等再生・創出適地に新たな拠点を創出
 - 大阪湾全体における藻場・干潟等の再生・創出の取組の活性化
- 2050年度 大阪湾MOBAリンク構想の実現（カーボンニュートラル等に貢献）
 - 藻場形成拠点から藻場のタネ（孢子）が拡散して藻場が拡大し、大阪湾奥部のミッシングリンク解消

大阪湾のブルーカーボン生態系(MOBA設立の背景・趣旨)



情報発信が限定的

藻場の再生・創出活動の活性化には民間企業や府民等の理解促進が必要だが、藻場や干潟は海面下であり、直接見られず、情報発信も個別に行われており、限定的



多様な主体による連携の場がない

各地で各主体が個別に活動しており、課題解決や新規創出に向けて、担い手、支援者、場の提供者が連携するプラットフォームがない



藻場の再生・創出への参画が限定的

大阪湾の藻場は、湾奥部は消失し、湾の南部や西部は減少しており、藻場の再生・創出の促進に向けては、参画主体を拡大する必要がある

①大阪湾の取組みに関する情報発信強化

②多様な主体が気軽に参加し、連携できるプラットフォームの構築

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス (MOBA) の設立

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）

- 令和6年1月24日に、「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けて、大阪府と兵庫県が連携して大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）を設立。（大阪府知事・兵庫県知事の記者会見で発表）

名称

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）
*Members of the **O**saka bay **B**lue carbon ecosystem **A**lliance

構成

大阪湾における藻場等の創出意欲のある民間企業、団体、大学、自治体等（令和6年4月22日現在・53団体）

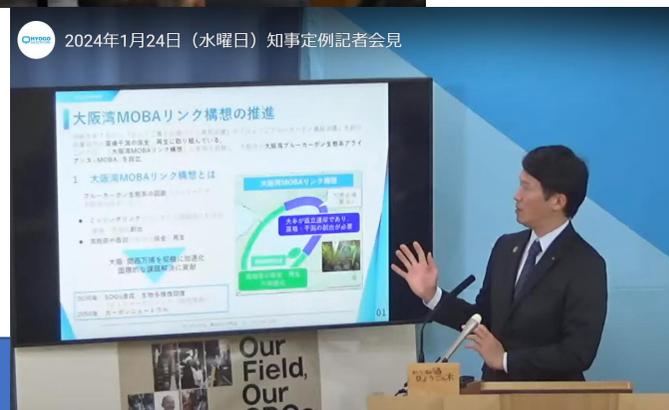
活動内容

- 会員のブルーカーボン生態系の創出等の取組活性化
- 情報発信・普及啓発・理解促進の一元的な展開
- 会員の連携による新たな創出等の検討・支援
- 藻場創出等が生物多様性等へ及ぼす効果把握 等

事務局

大阪府（環境保全課）と兵庫県（水大気課）の共同設置

知事記者会見の様子



大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）〔具体的な活動内容〕

情報発信・普及啓発・理解促進 の一元的な展開

- 大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）の名称での統一的な発信
- 顕彰制度（例：全国海の再生・ブルーインフラ賞）の奨励
- 大阪・関西万博の民間パビリオン等での情報発信 等

ブルーカーボン生態系の創出等 の取組活性化

- 藻場の再生・創出を行う事業者等の希望に応じて意見交換を実施し、既存の取組みを拡充

等

会員同士のマッチング による「新たな」創出等

- アライアンス会員同士が連携し、新規の藻場再生・創出プロジェクトを企画・立案

等

藻場創出等が 生物多様性等へ及ぼす効果把握

- 藻場の再生・創出が生物多様性や水質改善等に与える効果を確認

等

※各分類においては登録順で掲載しています。

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA) (令和6年4月30日現在・54団体)

(民間事業者)		(団体等)
● Canopy Blue Japan	● 岡部株式会社	● 大阪府漁業協同組合連合会
● 三洋テクノマリン株式会社	● 株式会社神戸製鋼所	● 一般社団法人スマートな島ぐらし推進協議会
● 株式会社ダイフク	● 沖電気工業株式会社	● 一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア
● 広和株式会社	● 株式会社イノカ	● 兵庫県漁業協同組合連合会
● 株式会社フィッシングマックス	● 共英製鋼株式会社	● 特定非営利活動法人大阪海さくら
● 日鉄神鋼建材株式会社	● 海洋土木株式会社	● 特定非営利活動法人海プラスSOU
● オールサム有限会社	● 東亜建設工業株式会社	● 貝殻利用研究会
● 株式会社 東京久栄	● 株式会社日立製作所	● 一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブ
● 株式会社 シャトー海洋調査	● 株式会社朝日テック	● 一般社団法人 須磨里海の会
● マルワズ貿易株式会社	● 株式会社メディアクト	● 一般社団法人マリンハビタット壱岐
● ト部産業株式会社	● 住友電気工業株式会社	● ジャパンブルーエコノミー推進研究会(BERG) ブルーカーボン促進のための栄養塩供給管理プロジェクト
● トーカロ株式会社		(教育・研究機関等)
● 三井住友海上火災保険株式会社		● AQUARIUM×ART átoa
● 日本リーフ株式会社		● 学校法人大阪ECO動物海洋専門学校
● 関西エアポート株式会社		● 大阪公立大学海洋環境学研究室
● 横河電機株式会社		(行政関係)
● レンゴー株式会社		● 環境省近畿地方環境事務所
● 深田サルバージュ建設株式会社		● 兵庫県 明石市
● 青木あすなろ建設株式会社		● 大阪府 泉大津市
● 日本興業株式会社		● 大阪府 阪南市
● 日本製鉄株式会社		● 大阪府 岸和田市
● 農林中央金庫		(オブザーバー)
● ENEOS株式会社堺製油所		● 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス (MOBA)

これまでの活動内容

〔令和6年1月〕MOBA設立の発表

- 令和6年1月24日に、「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けた大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）の設立について、大阪府知事・兵庫県知事の記者会見で発表



〔令和6年1月～〕 会員の皆様による情報発信の例（会員ホームページから引用）

農林中央金庫 様



大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンスへの参加について

詳細情報

泉大津市 様



深田サルベージ建設株式会社 様



株式会社ダイフク 様



〔令和6年3月〕「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジへの登録

- (公社) 2025年日本国際博覧会協会が実施している、みんながつくる参加型プログラム「TEAM EXPO 2025」の「共創チャレンジ」に「大阪湾MOBAリンク構想の実現に向けて」を登録

The screenshot shows the registration page for the challenge "大阪湾MOBAリンク構想の実現に向けて" (Towards the realization of the Osaka Bay MOBA Link Concept). The page includes a map of the Osaka Bay area with labels for Kansai International Airport, Osaka Bay, and the Expo 2025 site. The challenge title is "大阪湾MOBAリンク構想の実現に向けて" and it is categorized as a "共創チャレンジ" (Co-creation Challenge) dated 2024.03.13. The page also features a search bar, a star icon, and three icons representing the Sustainable Development Goals (SDGs) 13 (Climate Action), 14 (Life Below Water), and 17 (Partnerships for Development). Below the challenge title, there is a section for "法人" (Company) with the following details:

法人	
チーム名	大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス (MOBA: Members of the Osaka bay Blue carbon ecosystem Alliance)
共創メンバー	大阪府環境保全課・兵庫県水大気課 MOBA会員 (令和6年2月29日時点: 36団体) https://www.pref.osaka.lg.jp/kankyohozen/osaka-wan/mobalist.html
主な活動地域	日本 / 大阪
活動テーマ	科学技術、バイオテクノロジー / 地域活性化 / 海洋、水 / 生物多様性、自然環境、生物 / 農業、林業、水産業 / 環境、エネルギー / 大阪・関西万博の内容周知、テーマや意義の発信 /

➤ MOBAの一環で行うイベント等については、「TEAM EXPO 2025」のイベントのホームページ (<https://team.expo2025.or.jp/ja/event>) での情報発信が可能です。ぜひ事務局までご連絡ください

〔令和6年3月〕 EXPO 2025 グリーンビジョン（2024年版）に掲載

- 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は、大阪・関西万博の準備、運営を通じて持続可能性の実現を目指すため、脱炭素・資源循環に関して、大阪・関西万博で目指すべき方向性や核となる対策の候補等について、EXPO 2025 グリーンビジョン（2024年版）を公表。
- 本改訂において、「大阪湾MOBAリンク構想」や本アライアンスに関する記載が追加。

自然環境



- 環境影響評価書に基づいた適切な事業の実施
 - ・工事区域外への不要な立入の防止
 - ・建設機械は可能な限り低騒音型、低振動型を使用
 - ・適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置
 - ・空調設備等は可能な限り低騒音型、低振動型の設備を採用
 - ・会場内の南東部は、浅場となるため、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討
 - ・会場内外において、裸地（砂れき地）、緑地、水辺（浅場等）など、可能な限り鳥類の生息環境に配慮するように検討
 - ・保全措置の履行状況の確認：4月から7月に、会場予定地及びその周辺で鳥類の飛来状況を確認
- 「持続可能性に配慮した調達コード」において、生物多様性の保全を含む、持続可能性に配慮した調達基準を制定
- 自然保護団体等NGOと自然環境・生態系の保全等について共同検討を実施

- 大阪府と兵庫県が大阪湾沿岸を藻場等を取り囲むことをめざす「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けて進めるプロジェクトと連携し、生物多様性の保全、ネイチャーポジティブについて発信
- 万博会場の中心部に整備している「静けさの森」に植栽する樹木について、万博記念公園をはじめ、大阪府内の公園等から将来間伐予定の樹木などを移植



【静けさの森イメージ】

14

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

さらに、2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、吸収源対策の新しい選択肢として提示された。ブルーカーボンを隔離・貯留する海洋生態系として、海藻藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林が挙げられ、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれている。大阪府は2022年1月に「大阪府海域ブルーカーボン生態系ビジョン」を公表し、湾南部海域において、ブルーカーボンの蓄積だけでなく、水産生物の産卵や幼稚仔魚の育成にも貢献する藻場の創造・保全を進めるとしている。さらに、2024年1月には、大阪湾沿岸を藻場等を取り囲む「大阪湾MOBAリンク構想」の実現に向けて、兵庫県とともに、「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス」(MOBA)を設置し、藻場等の保全・再生・創出を加速させることとしている。



図 ブルーカーボンのメカニズム（出典 国土交通省ウェブサイト）
 (https://www.mlit.go.jp/kowan/content/001394943.pdf)